



第14回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」
in 北海道仁木町



Agenda

#01

クラダシチャレンジとは

#02

7日間のスケジュール

#03

活動報告

#04

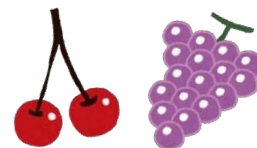
参加者の声

#05

事後報告会

#06

総括



#1. クラダシチャレンジとは

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

地方創生やフードロス問題に興味がある学生が、人手不足に悩む地方農家での農業支援を通し、地域課題やフードロスなどの社会課題について考える、社会貢献型インターンシップです。参加学生の旅費・交通費や現地での滞在費、食費等は、地域経済の活性化と社会発展に寄与するために設立した「クラダシ基金」から支援しています。

クラダシチャレンジ実施の目的

活動中：未収穫品から新たな収益を生み出し、経済面で地方・農家を支えます。さらに、学生が現地を訪れることで町に活気をもたらし、地域の魅力をSNS等で発信することでさらなる発展のパワーに繋がります。

活動後：学生が自治体や農家の方1人1人の温かみに触れ、地方・農業の魅力を体感することで、将来のキャリア選択を通して地域に貢献しようという意識が芽生えます。



#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは クラダシ基金の概要

地域経済の活性化と社会発展に寄与するために
設立された支援金制度「クラダシ基金」



地方創生事業・フードバンク支援事業・教育事業・
食のサステナビリティ研究会の社会貢献活動に充てられます。

クラダシ基金とは

クラダシ自らが社会貢献活動を行うために
創設した基金で、ソーシャルグットマーケット
「Kuradashi」上における寄付先の1つです。

地域創生事業やフードバンク支援事業、教
育事業、食のサステナビリティ研究会の社
会貢献活動に活用しています。

▼参考URL

クラダシ基金について

: <https://www.kuradashi.jp/fund>

#1. クラダシチャレンジとは

「クラダシチャレンジ」による農家・自治体への効果

①未収穫作物の収穫による新たな収益の獲得

地方では、農業人口の高齢化・労働者人口の不足によって、未収穫作物の発生が増加しています。京丹波町で生産されている黒枝豆の収穫は、一さやずつ手作業で行われるため、時間と人手が必要です。収穫作業の必要な時期に学生を派遣することで、**未収穫による一次製品の食品ロスが解決される**と同時に、農家さんの新たな収益を獲得することができます。

②地方の関係人口の増加に貢献、若者を呼び地域振興に

地元の方から見たら当たり前の風景でも、都心にいる学生から見ればとても価値のあるものに見え、**地元の商品や土地に誇り**を持つことができます。そして、SNS等を利用して地方の魅力を発信することで、**地方の関係人口の増加を図ることができます**。



③地元の特産品の購買促進に

京丹波町には、黒枝豆の他にも、丹波栗・松茸などの特産品に加え、虹や紅葉など様々な見所があります。そのような素晴らしい魅力を、活動を通してPRすることで、**購買促進・観光客の増加**を図ることができます。



#クラダシチャレンジ in 北海道仁木町  

Kuradashi

第14回 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 北海道仁木町

- 活動内容:①さくらんぼの収穫・選果・梱包
 - ②ワイン用ブドウの作業(花かす取り・枝の誘引)
 - ③仁木町役場の方との意見交換
 - ④SNS等を利用した地方の魅力発信
 - ⑤ソーシャルグットマーケット「Kuradashi」でのさくらんぼの販売
- 開催期間:2022年7月3日～7月9日
- 参加人数:6人
- 実施企業:株式会社クラダシ(クラダシ基金にて運営)

#1. クラダシチャレンジとは

北海道仁木町クラダシチャレンジの概要

【仁木町 は】



(仁木町HPより)

北海道の西部に位置する町で、人口は3,175人(令和2年調べ)です。

豪雪地域に指定されていますが、根雪期間は短く、霜も少ないので農作物の栽培に適しています。

かんきつ類などの南国産を除いてほとんどの作物が栽培可能な気象条件にあります。



2021年2月17日に株式会社クラダシは、仁木町と食品ロス削減に向けた連携協定を締結いたしました。

一次産業活性化に不可欠である、食品ロス削減に向けた取り組みを強化するとともに、地元の特産品や町の魅力の発信を通じて関係人口を拡大することを目指します。

▼連携協定について詳しくはこちら

<https://corp.kuradashi.jp/news/21-02-17/>

#クラダシチャレンジ in 北海道仁木町






Kuradashi

#01. 7日間のスケジュール

7日間のスケジュール① (Day1-3)

<Day 1>

- 8:00 成田空港出発 
- 9:50 新千歳空港着 
- 11:00 空港にて昼食・自由時間  
- 12:30 新千歳空港出発
- 14:21 JR仁木駅到着
- 15:00 ワイナリー見学
- 16:30 ガーデン見学 
- 17:30 夕食
- 18:30 コテージへ移動
- 19:00~ 活動の振り返り・自由時間

<Day 2>

- 7:00 朝食
- 7:30 コテージ出発
- 8:00 さくらんぼの収穫 
- 12:00 昼食
- 13:00 さくらんぼの選果
ギフトボックスの組み立て
- 17:30 夕食 
- 18:30 NIKI Hills 出発
- 19:00~ 活動の振り返り・自由時間

<Day 3>

- 7:00 朝食
- 7:30 コテージ出発
- 8:00 さくらんぼの収穫 
- 12:00 昼食
- 13:00 さくらんぼの選果
- 17:30 夕食 
- 18:30 NIKI Hills 出発
- 19:00~ 活動の振り返り・自由時間



7日間のスケジュール② (Day4-6)

<Day 4>

- 7:00 朝食
- 7:30 コテージ出発
- 8:00 さくらんぼの収穫🍒
- 12:00 昼食
- 13:00 さくらんぼの選果
- ギフトボックスの組み立て
- 17:30 夕食🍷
- 18:30 NIKI Hills 出発
- 19:00~ 活動の振り返り・自由時間

<Day 5>

- 8:00 ①ワイン用ぶどうの誘因🍇
- ②・ギフトボックス組み立て
- ・さくらんぼの収穫
- 12:00 昼食
- 13:00 ①さくらんぼの収穫・選果
- ②ワイン用ぶどうの誘因
- 17:30 BBQ🍷🍷
- 18:30 NIKI Hills 出発
- 19:00~ 活動の振り返り・自由時間

<Day 6>

- 8:00 ①ワイン用ぶどうの誘因🍇
- ②・ギフトボックス組み立て
- ・さくらんぼの収穫
- 12:00 昼食
- 13:00 仁木町役場の方々との意見交流会
- 15:10 仁木神社🍷🍷
- 16:00 ネイチャートレッキング
- 18:00 夕食
- 19:00 NIKI Hills 出発
- 19:00~ 活動の振り返り・自由時間



7日間のスケジュール③ (Day7)

<Day 7>

8:00 全員でワイン用ぶどうの誘因🍇

11:00 写真撮影

持ち帰り用のさくらんぼパッキング

12:00 帰りの準備

13:00 Niki Hills Wineryにてフレンチコースの新メ

ニューをいただく

15:40 Niki Hills Winery 出発

17:50 新千歳空港発

21:00 成田空港着



#02. 活動報告

▶ワイナリー見学

仁木町に着いてすぐ、Niki Hills Wineryの歴史や、ワイン醸造工程などの説明を受けました。大人の社会科見学を体験。

ワインの保存場所では映える”写真が撮れ、一同カメラのシャッターが止まりませんでした。

雄大な自然と共生しながら、仁木町を開拓していった様子の写真も。

Niki Hills では、ワイン醸造を通じた地方創生も目指しており、醸造所隣に宿泊施設を作るなど、関連施設を設置することを通して、仁木町の観光資源を生み出したそうです。



▶さくらんぼの収穫作業

脚立に登ったりしながらさくらんぼの収穫を行いました

さくらんぼを扱う際には様々な配慮を垣間見ることができました。収穫してかごに入れる時には「傷み」を作らないために優しく置いたり、雨に濡れたり、直射日光に当たらないようにしたりしていました。同じ作業を行ってもワイナリーの方々はその倍以上の作業効率で収穫を行っており、すごさを実感しました。



同じ種類のサクランボでも木によって実の大きさや味が違いました。より大きく、色づきが均等でよい色味、虫食いや腐りが少なければ選果の時間も大幅に減るので作業効率化のためにはより良い実を付けさせることが大事だと知りました。



▶さくらんぼの選果作業

さくらんぼのサイズ、傷の状態などをみて選果し、パック詰めしました。

選果では、小さな傷があるものや、サイズが小さいものはパックで安く売り出し、大きな傷がついていると加工用としてさらに安く売るそうです。さくらんぼが新鮮な状態のままお客様の手元に届くために、目に見える「傷み」や「虫食い」だけでなく、出荷されている間にカビてしまわないように「柔らかさ」をととても重要にしていたことから、作り手としてのプライドも感じることができました。作業に慣れてきたらさくらんぼのサイズを少しずつ測らなくても分かるようになりました！



仕事の中でお客様の声が届くのは稀であり、お客様の声を聞くために頑張るのではなく、行った仕事のリピート率などの数字になって成果が現れた時にやりがいを感じるとおっしゃっていました。同じさくらんぼでもその状態や、詰める箱、売り方によって値段が大きく異なるそうですNiki Hillsの方はさくらんぼの状態や消費者のニーズなどを細かく把握して最大利益を追求していました。これからは木箱につめ、チョコレートを食べるような感じでワインとさくらんぼをつまめたらという思いを込めたさくらんぼを販売していくそうです。



▶ワイン用ブドウの誘引作業

ブドウの枝を立てて実の部分の風通しを良くさせ、雪に埋まる時期に枝が折れないためにする作業

直射日光の中の作業は午後だったとはいえ、なかなか体力を奪われる作業でした。しかしブドウの実の部分の風通しを良くして腐らないようにするためには、欠かせない作業のためひとつひとつ丁寧にを行いました。最初はファームの方にどんどんスピードに差をつけられていましたが、途中から人で分担して行ったことや、慣れがでてきたこともあり、後半は非常に効率的に行うことができました。

しかし、誘引中にぶどうの枝を折ってしまったことがあり非常に申し訳なく感じましたし、枝がだいぶ伸びてしまっているので折らないようにやるのが難しかったです。



ブドウの枝を綺麗に立てることは難しく、枝の一部が折れてしまったり、ブドウの繊細さを知ることが出来ました。ブドウの繊細さを肝に銘じながら、きちんとブドウが育つように枝を上を持ち上げつつ効率と慎重さを掛け合わせながら作業を行いました。気候的には涼しかったですが、単純にはいかなくて慣れが必要な作業でした。



▶ワイン用ブドウの誘引作業

ブドウの枝を立てて実の部分の風通しを良くさせ、雪に埋まる時期に枝が折れないためにする作業

広い土地で暑い中、普段はメインは人でブドウ畑を管理しているとのことでその大変さに驚きました。



ブドウは雄蕊と雌蕊がブドウの実のようについており、それがとても繊細で少しでも擦ったり、揺れてしまうと落ちてしまうということを学び、作業を慎重にこなしていきました。誘引作業をしていく中で雑草をむしる作業をしましたが、雑草を中々抜くことができなかったのが自然の力強さを感じました。また、Niki Hills Wineryのスタッフの方に仕事のやりがいについて伺ってみると、ワインブドウ製作はやらされているのではなく、自分からやりたいと思っしていることがモチベーションにつながっているということをおっしゃっていました。モチベーションの維持にはお客様からの声であったり、ワインの賞を受賞することの達成感や喜びが影響しているとのことです。また、なぜ個人農家をしないかと聞いてみたところ、個人で経営して行くよりも多くの学びが得られるからとおっしゃっていました。



▶Niki Hills Garden見学

Niki Hills Gardenの見学を行い、仁木町の景観の魅力再発見しました。

NIKI Hills Gardenはとても美しく、北海道仁木町の景観が一望でき、仁木町の自然の魅力を実感しました。山の頂上にあるため、辺り一面を一望できる景観は他の市や海まで眺めることが出来ました。



庭園の管理は、成長段階を計算してどのような景観になるかを想定しながら植えているらしく、毎日活動後に庭園のそばを通るんですが、日が経つごとに庭園の景観が変わっていて、どの角度からも美しく見えるように工夫されていた。



▶ネイチャートレッキング体験

Niki Hills Wineryの裏側にある森林でネイチャートレッキングを行いました。

NIKI Hills Wineryの裏側の森林は、主に松の木が植えられており、自然の光が美しく差し込む景観は圧巻でした。その他にも傘のように大きなハスの葉やクマがひっかいた傷など、なかなか見ることが出来ないものを見ることができました。



薪割り体験もあって、みんなで薪を割る体験をしましたが、なかなか綺麗に割ることができず難しかったです。木と木の間から差し込む光と青空が、とても美しかったです。



▶仁木神社観光

仁木神社というワインをモチーフにした珍しい神社を訪れました。

仁木町がワインの町なので、ワインをモチーフにした神社があると聞いて訪問しました。
仁木神社では、手水舎がワインになっていたり、ワインの樽がお供えされていたりなど、神社全体がワインに溢れていました。



#クラダシチャレンジ in 北海道仁木町



仁木神社から鳥居の方向へカメラを向けると、フォトジェニックな写真が撮れるスポットがあり、神社自体の面白さだけでなく美しさを感じました。

▶町役場の方との意見交換会

町役場の方に、仕事のやりがいや地域創生について、詳しくお話を伺いました。

仕事のやりがいのお話では自分たちの施策によって見える景色が変わることや、農家の方から感謝の声を聞くことがやりがいに感じるとおっしゃっていました。若者の人口流出の対策としてはリモートワークやリモートワーク体験型旅行ツアー等を通して地域の魅力をRするとともに、子育てしやすい環境を整えること、多様な働き方に対応できるように行政が整備することで人口流入を図るというお話を伺いました。貴重なお話をたくさん聞くことができ、とても有意義な時間でした。

スマート農業のお話では、近い将来ブドウの収量を予想するシステムやワインブドウの自動草刈り機などの導入が実現するかもしれないと伺いました。さくらんぼの収量が把握できないのがビジネスを展開するうえでの一つのボトルネックになっているというお話を聞いていたので、あたらしい農業のビジネスの形が今後誕生するのではないかと考えました。



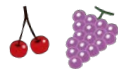
#04. 参加者の声

クラチャレに参加してみて

私は今回のクラチャレを通じて農家の実情や大変さを実感することができ、人手や技術問題などフードロス問題の解決は一筋縄ではいかないということも理解しました。しかし、そのような負の側面だけではなく、リモートワークなどの多様な働き方の出現や、リモートでの体験型ツアーの普及など、都市部と地域の格差が縮小している現状が、地方に地域創生のチャンスを生みだしているということも理解することができました。今回のインターンを糧にして、フードロス削減の為に今後行動していきたいです。



【横浜国立大学3年 清水嵩登】



現状を知ることが課題解決の第一歩

大学で農学を専攻し、複数の農家さんのところで農作業のお手伝いには参加したことがあるので、農業やフードロスに関する課題はある程度知っていると思っていました。実際に現地の方にお話を聞くと、課題は農家ごとに異なること、販売の仕方や流通にも工夫が必要だということ、自分が既に知っている農業の当たり前は他の学生には全く新しいことだったことが分かりました。学生のこうしたい・こうした方がいいのではという考えは机上の空論になってしまうことが多いのだろうなと思い、実際に現場に足を運んで自分で感じ、課題解決へどうするかを考えることが大事だと思いました。今回のインターンで感じたことを発信、共有していきたいと思います。

貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



【東京農工大学3年 田中紗帆】



体験の重要性と食への感謝

今回クラチャレに参加してみて、私は食べ物のありがたみを最も強く感じました。私は農業体験は初めての経験でしたが、北海道と言ってもとても暑くて、高い場所での作業や日陰のない炎天下での作業があり、農家さんはほぼ毎日このような作業を行っているのかと考えると、農家さんの努力とその食材に対する思いを感じて、さらに食材に対して感謝の気持ちをもって食べようと思いました。このように、大切に育てられてきた食材が食品ロスに繋がるのはもったいないと感じた点から、私は今後、食品ロスと食のありがたみを感じられるような仕組みの開発に向けた研究を行っていきたいと考えました。実際に農業を経験することによる効果はとて大きく、様々な気づきを得ることが出来たとて有意義な経験になりました。NIKI Hills Farmの方々やWineryの方々本当に優しく私たちに接していただき、私は仁木町がとても好きになりました。

今後、さらに仁木町の良さを多くの人に知ってもらいたいと思います。



【大正大学3年 鈴木駿介】



「ピンチはチャンス」

今回、北海道仁木町でのクラダシチャレンジへは二回目の参加となりましたが、現地の方々と関わることや、参加した学生同士での会話のなかで新たな気づきや学びが多くありました昨年度の活動を通して、一概に「フードロス削減する」と言っても、それに付随するさまざまな課題を解決する必要があるため、今の状態でフードロスを無くすことはほとんど不可能であることを体感しました。そのため、今回はもっと広い視野で仁木町を見ようと思い参加しました。仁木町に住む方々はタクシーなどのインフラが整備されていないことを問題視していることを知りましたが、需要が都心に比べあまり高くないことや、運転手がいらないことなど、国が後ろ盾となり金銭面でも援助しないと導入がなかなか難しいことがわかりました。このインフラの問題を例にとってみても、やはり地方の問題を地方だけの力で解決することは困難であることを実感させられました。しかし、「ピンチはチャンス」です。これKI Hills Farmの方とフードロス問題について話していた際におっしゃっていた言葉で、「なにかのピンチに直面したら、マイナスの方向にばかり考えるのではなくチャンスとして捉える」という意味です。今までは難しいと感じたら負の方向にしか考えられませんでした。これからはこの言葉を思い出して前向きに向き合っていこうと思いました。社会が直面している課題や、自身がこれから先直面するであろうピンチに対しても、この精神を忘れずに解決策を考えていきたいと思っています。また、今回参加したことで、人とのつながりというのは素晴らしいものであると感じたため、これからもこの活動で関わった方々との出会いを大切にしていきたいです。この度はとても貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。



【立命館大学3年 植草七海】

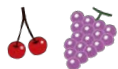


食に対する価値観が大きく変わった7日間

私が本インターンシップへの参加を志望した理由に、スーパーに並んでいる日本産の果物は「見た目が美しく、大きさが均一、味も均一」という印象があり、なぜそのような事が可能なのか、そしてそれを当たり前前に思っている自分に違和感を持ち、農業の現場を知りたいと思ったことがあります。仁木町で農業を体験しながら過ごした7日間から、消費者の手元に届くまでにどれだけの労力がかかっているのかを感じることができました。そして、食に対しての価値観を大きく変えることが出来ました。実際に仁木町から帰宅し、食卓に並ぶ食材を見て、それが食べられるようになる過程には多くの人が関わって、多くの労力が費やされてきたことを想像しながら食べるようになりました。貴重な経験をさせてくださりありがとうございました。今後は今回のインターンシップで学んだことを社会に還元できるようにしていきたいです。



【聖心女子大学3年 倉本悠里】



#5. 事後報告会

第15回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 沖縄県石垣市と合同で、参加者による事後報告会を行いました。

■日時: 2022年8月10日 16:00-18:00

■場所: クラダシオフィス・オンライン配信

■参加者: 「クラダシチャレンジ in 北海道仁木町」参加学生
「クラダシチャレンジ in 沖縄県石垣市」参加学生
仁木町の方々
NIKI Hillsの方々
ロート製薬の方々
クラダシ社員

■目的: 参加した学生が、現地の方との交流・収穫支援の活動を通して見出した課題への解決策を提案する



課題発見・政策立案





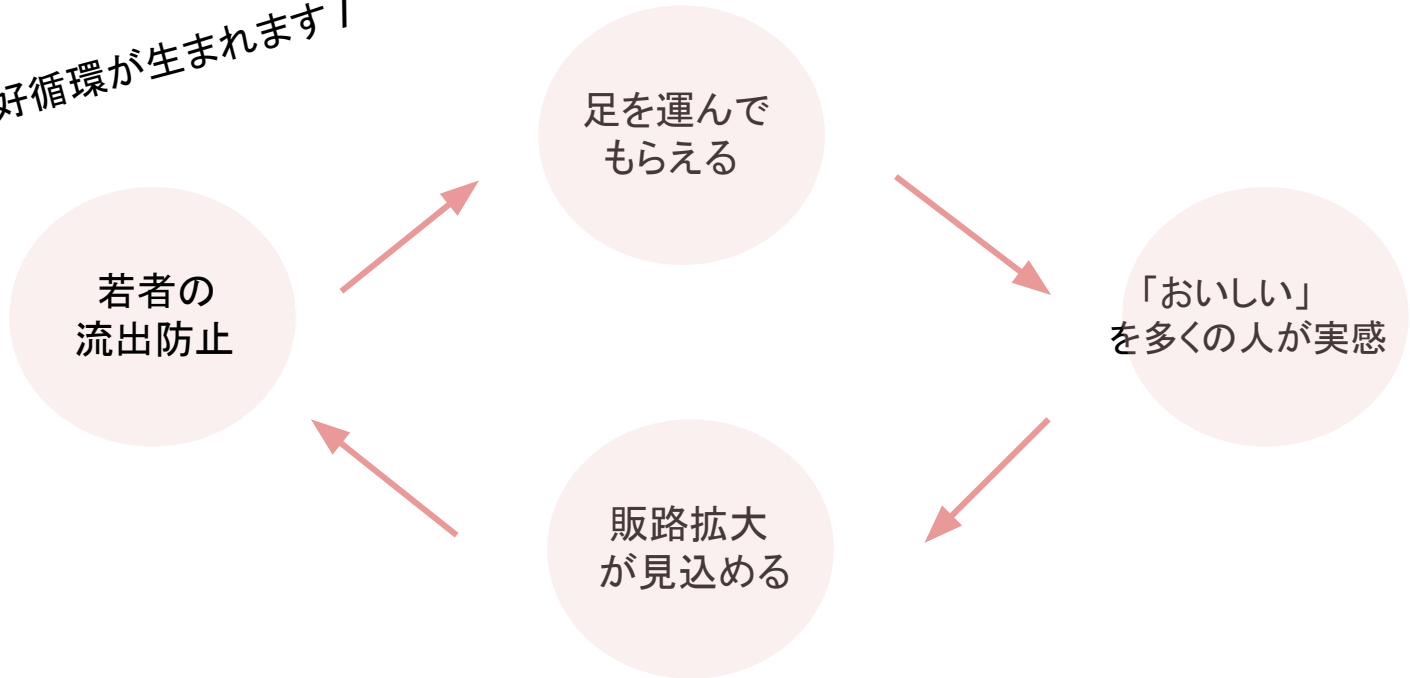
私たちが考える
仁木町の理想像

知名度向上から
仁木町全体の
好循環を生み出す



“美味しさ発見！仁木町の魅力”
知名度爆上げ大作戦！！！！

こんな好循環が生まれます！



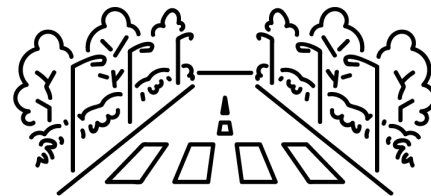
NIKI's Strong Points

新鮮でおいしい作物

四季折々の景観

札幌やニセコなどから近い

充実した子育て支援



飲食店・娯楽施設の少なさ

通過型観光

交通機関の不便さ

NIKI's Weak Points

Plan #1

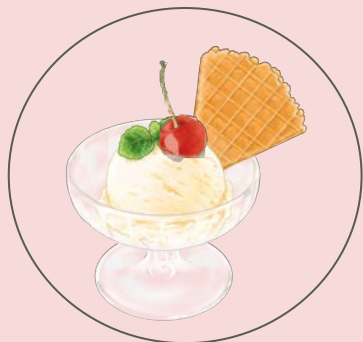
仁木から、感動のおいしさをお届け



Plan #1

SAKULAND by NIKI

“仁木から、感動のおいしさをお届け”



Plan #2

さくらんぼクレープの販売

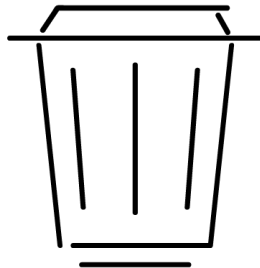


Plan #2

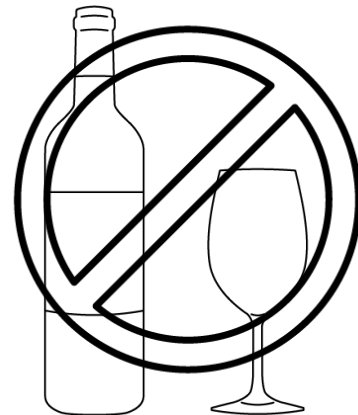
未成年でも
仁木町を
楽しめる！



「数量限定」
販売による
ロスの削減



ワインが
苦手な人でも
楽しめる！



#6. 総括

社名

株式会社クラダシ

設立

2014年7月

所在地

東京都品川区上大崎3丁目2-1 目黒センタービル 5F

代表者

代表取締役社長 関藤 竜也

事業内容

ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」の運営

URL

<https://www.kuradashi.jp/> (ショッピングサイト)

<https://corp.kuradashi.jp/> (会社HP)

株式会社クラダシは、仁木町以外の自治体でも支援を引き続き行なっております。

ご質問・ご相談等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。